

平成30年度 国際理解ワークショップ 進行シート

作成日： 2018 年 8 月 3 日

大学名： 新潟国際情報大学タイトル： わたしのおやつを作るひと

1：本ワークショップの要旨

世界には、貧困、差別、格差など、社会をとりまく構造的暴力が存在する。私たちのワークショップでは、参加者自身はその暴力に関わっていることに気づき、どのように向き合っていくかを考えていく。

私たちが生活の中で消費しているものを題材に、普段気づかない「仕組みられた暴力のシステム」に目を向ける。そして参加者がこれからの生活に問題意識をもてることを達成目標とする。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

本ワークショップの目的は、児童労働を題材として取り上げ構造的暴力について知ってもらうこと。そして自分たちが普段食べているものがその構造的暴力に結びついていることに気づきそのことに問題意識をもてるようになること。

3：本トピックをとりあげる理由

グローバル社会の現代において、賃金格差や教育、健康、環境の格差など、構造的暴力がかかわる問題が多く存在する。それらの問題を解決するために、まずはチョコという身近な食べ物にかかわる構造的暴力について考え、参加者が構造的暴力を知ることで問題解決のきっかけとしたい。

4 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 40人)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入 : 起 (26分)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、大学生自己紹介 (3分) ・ワークショップの流れ、目的説明 (3分) ・クイズ (10分) ・カカオ農園の説明 (10分) 	<p>大学生が参加者の前に並んで、あいさつと大学生の自己紹介をする。</p> <p>パワーポイントを使い、ワークショップ全体の流れと目的をはなす。</p> <p>パワーポイントに問題を映し、参加者に正解だと思う方を挙手してもらう。</p> <p>カカオとはどのようなもので、どうやってチョコになるのか、また、カカオを育てる農園はどのような場所なのかを、事例をあげて説明する。そして、農園で子供が運ぶカカオの重さ(約20kg)を実際に持ってもらう。</p>	<p>ワークショップをする大学生を知ってもらおう。</p> <p>ワークショップを行う目的を参加者に理解してもらおう。</p> <p>チョコという題材について、クイズを通じて興味をもたせる。</p> <p>チョコがどのようにできているのかを知ってもらおう。</p>	<p>なし</p> <p>パワーポイント</p> <p>パワーポイント</p> <p>パワーポイント</p>	<p>参加者が大学生に注目する。</p> <p>パワーポイントをみながら、今日の目的をある程度理解する。</p> <p>分かる人は積極的に手をあげ、わからない人も自信はないながらも手をあげる。なかには上げない人も。手をあげることの強要はしない。</p> <p>※このクイズの前にアイスブレイクを設け、緊張をほぐす</p> <p>「へえーチョコってこうやってできるんだあ」</p> <p>「カカオってこんなに重たいんだ！」</p> <p>※「」内は予想される生徒・児童の反応</p>

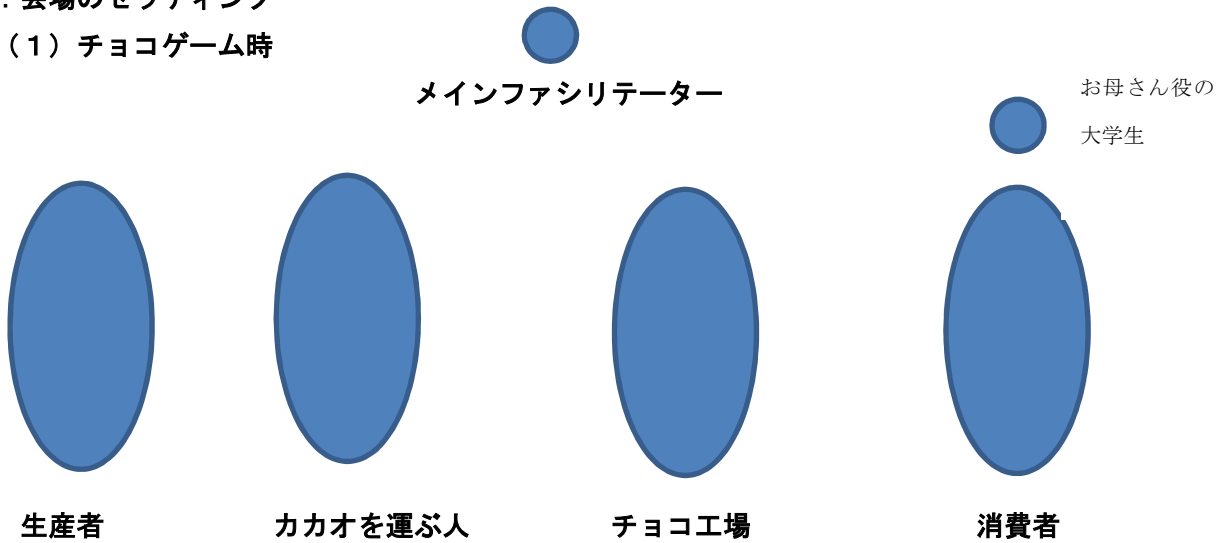
<p>展開：承 (13分)</p>	<p>・チョコワーク 前半 (13分)</p>	<p>参加者チームを消費者、生産者に分け、それぞれ指示を受けて働く。その後消費者はチョコ工場からチョコを買い、生産者は給料をもらう。一通りワークが終わったら個人で振り返りシートを記入する。</p>	<p>このゲームを通して消費者→工場→カカオを運ぶ人→生産者のお金の流れを知ってもらう 生産者と消費者の仕事を経験してもらい貰える賃金の格差を知ってもらう</p>	<p>小道具 大 お金(段ボール) 100円 1枚 円2枚 10円 5枚 1円 20枚 チョコ(段ボール) 1枚 カカオ(ペットボトル) 1本 役プレートママ 2 工場 1 農園のボス 1 立て札 日本 1 ガーナ 1 汚れた皿(紙皿) 20枚 小 チョコ(段ボール) 10枚 カカオ(ペットボトル) 20~30本 消しゴム 10個 反省シート 個人用 15枚 チーム用 2枚 ポストイット 大量 45枚 ペン箱 3 模造紙 3 お金(厚紙) 100円 30 1円 50</p>	<p>予想される反応 ・カカオ(ペットボトル) 運ぶの大変 ・皿洗い楽 ・生産者(貰える金少なくね) 「なんで自分たちと同じ子供が働いているの？」 ※注意事項 お金の流れを見せる時にちゃんと見ってもらうよう仕向ける。 ゲームはちゃんと受けるけど解説を聞かない子もいる可能性があるのだからちゃんと聞いてもらえるように促す。</p>
<p>休憩(10分)</p>					<p>ここで休憩をいれる</p>

<p>発 展 : 転 (20 分)</p>	<p>・ チョコワーク 後半 (11 分)</p>	<p>前半と役割をかえて、もう一度チョコワークを行う。</p>	<p>生産者・消費者 どちらの立場も 体験すること で、同じ労働で も、過酷さや対 価に大きな違い があることを知 る。</p>	<p>チョコゲーム前 半と同じ小道具</p>	<p>「思っていた以上 にカカオ運ぶのき ついな…」 「お皿洗い楽し ん!これで 100 円 ももらっていた の?」</p> <p>※注意事項 ・ 2 回目というこ ともあるが、参加 者が飽きないように ファシリテートす る。</p>
	<p>・ 動画鑑賞 (10 分)</p>	<p>実際にカカオ農園 で働く子どもの様 子が撮られたビデ オを流す。</p>	<p>実際に働いてい る子供が、どん なことを思いな がら働いている のかを知っても らう。</p>	<p>パワーポイント スピーカー</p>	<p>過激な内容は避け る 「ホントに子供が 働いてるんだ」</p>
	<p>・ チーム内振り 返り (6 分)</p>	<p>2 回のチョコワー クで、なにを思っ たり考えたりした のかをチームで共 有する。</p>	<p>参加者がチョコ ワークについて 思ったことを考 えた。</p>	<p>振り返りシート ペン ポストイット</p>	<p>全員が意見を言い やすい環境をつく る。</p>
	<p>・ 全体共有 (3 分)</p>	<p>チーム内の振り返 りででた意見など を参加者全体で共 有する。</p>	<p>多くの人の意見 を知る。</p>		<p>声が小さい人はフ ァシがサポートす る。</p>

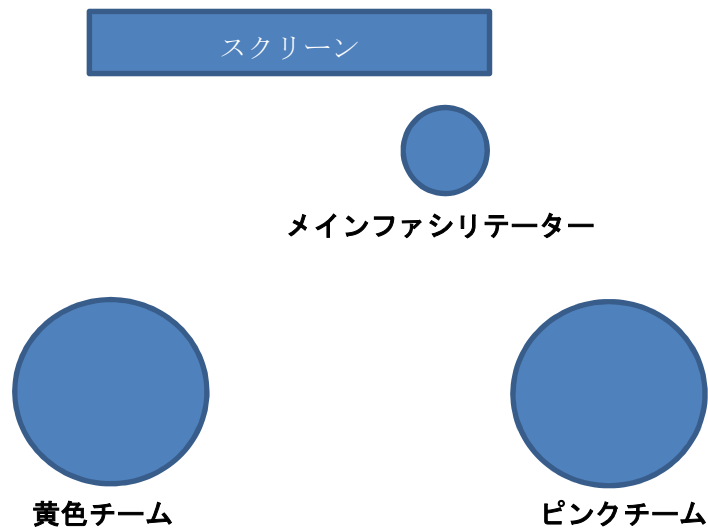
<p>まとめ：結 (18分)</p>	<p>・チョコワーク 解説(5分)</p> <p>・ワールドカフェ、解決策について(10分)</p> <p>・まとめ (3分)</p>	<p>パワーポイントを使い、構造的暴力の説明をする。</p> <p>チョコワークで知った問題について、チームごとに解決方法を話し合う。一定時間が経過したら、大学生がその場に残り、ほかの参加者は別のチームへ移動して、再び話し合う。何度か繰り返す(チーム数に応じて数回)。</p> <p>パワーポイントを使い、ワークショップの流れと目的をもう一度確認し、これからも考えていく問題であることを伝える。」</p>	<p>チョコワークの目的をもう一度確認し、どのような意味があったのか知る。</p> <p>自分たちに関係している問題という意識を持ち、解決していくためのきっかけにできる。</p> <p>ワークショップで何をし、何を得たのか整理する。</p>	<p>パワーポイント</p> <p>パワーポイント 模造紙 ペン</p> <p>パワーポイント</p>	<p>「へえー、だから100円のチョコでも農園ではたらく子どもに渡されるお金は少ないのか。」</p> <p>「チョコ買わなきゃいいんじゃない?」</p> <p>「カカオを作っている人にもっとお金が行くようにすればどうすればいいんだろう…」</p> <p>※注意事項 不買や単純に賃金を上げるだけが解決策じゃない事を心がけ、ファシリテートする。</p> <p>・今日帰ったら、家族に教えよう!</p> <p>「今度チョコ買うとき、パッケージとかいろいろみてみようかな。」</p>
<p>予備(3分)</p>					

5：会場のセッティング

(1) チョコゲーム時



(2) チョコゲーム時以外



6：使用する教材

チョコゲームセット

7：参考にした資料

岩附由香・白木朋子・水寄僚子（2011）『わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて。』合同出版

ヨハン・ガルトゥング（1991）『構造的暴力と平和』中央大学出版部

キャロル・オフ、北村陽子（2007）『チョコレートの真実』英治出版

「世界の子どもを児童労働から守るNGO ACE（エース）」<<http://acejapan.org/>>（最終閲覧日 2018年7月19日）

8：その他